

ORD 講演会

「混沌の世界を生き抜く知恵」 — 国際情勢分析と企業経営の基本 —

愛知淑徳大学ビジネス学部 教授 真田幸光先生



平成29年8月3日 りそな銀行様のご厚意により、りそなビジネスプラザおおさかにて、りそな銀行共催にて、愛知淑徳大学真田幸光先生による「混沌の世界を生き抜く知恵」～国際情勢分析と企業経営の基本～と題してご講演を頂きました。

覇権主義は、力の有る者が人間界の標準を作り、波及させ、その下で世界の中を安定させていくほうが世の中をは相対的に安定化する。

普通、強者となるリーダーたちは、人々が生きていく為に必要な物をコントロールしようとする。

つまり、水、食料、原材料、エネルギー資源のコントロール権拡大に走る。これらを経済的に支配する通貨でこれらを更に強く支配する。

既存の強者は、自らが強者である内に、万一の際に備えて「軍事力」を強化する。

現行の世界経済秩序は、国際金融が主導する弱肉強食型の原始資本主義である。

基軸通貨を持つ米国が、信用力の高さを背景として、实体经济を上回る「行き過ぎた広義の信用創造」により更なる格差を誘発させ、現行秩序の課題が具現化してきたことで、現行の秩序の変化を覆す3つの要因が、新たに混沌を深める原因として蠢いてきた。

1. 世界をリードする米国の民主主義そのものに問題が生じ始めているのか?
2. 世界をリードしてきた英米関係に亀裂が生じ始めているのか?
3. 過激派組織の動きの拡大

世界は、現行の秩序の変化を覆す要因に導かれるような動きとして、

- ・スコットランド情勢に見られた如く、既存の国家と言う枠組みを崩す可能性がある動き
- ・イスラム国やアルカイダの動きに見られるが如く、既存の世界経済の秩序そのものを根底から崩壊させようとする動きよる、欧州におけるテロ活動の拡大による「ユーロの信用力下落」
- ・ウクライナ情勢を背景としたロシアの孤立。
- ・BRICS開発銀行設立構想を背景とした中国本土やロシアを軸とした新興国の為の開発機関による、人民元の影響力が新興国を中心に拡大し、既存の国連主義や、世界銀行グループを中核とした世界経済の開発を促進するという枠組みを根底から崩す可能性。

中国の実力

- 1.人口、潜在的な労働者と消費者の数が世界一。
- 2.国内総生産は、11兆米ドルを超える世界二位の経済大国
- 3.GDPは、8300米ドル弱で、発展途上中
- 4.GDP成長率は、6.9%と経済大国ではトップ
- 5.外貨準備高は、3兆2000億米ドルを超え、世界ダントツの首位
- 6.経常収支黒字は、2200億米ドル弱と世界第二位
- 7.輸出は、2兆3000億米ドルを超え世界一
- 8.輸入は、1兆9600億米ドル弱と世界第二位
- 9.貿易規模は、4兆2000億米ドルを超え世界一

立派な経済大国です。しかしながら、実体経済の悪化は顕在化している中で、習近平共産党総書記が、「党中心の核心」と位置づけられたことにより、習近平体制の権力基盤が強固になった。国防費の増加は、「宇宙開発、米軍に対抗できる海・空軍力の拡大」。



人民解放軍は、人民の為の軍隊から中国共産党の軍隊に大きく傾斜している。

南シナ海、東シナ海、インド洋での軍事的活動の拡大と共に宇宙ステーションと人工衛星の運用による宇宙権の覇権。中国は、現行の世界秩序の変化を主導的に起こそうとしている。

日本の外交的対抗策として、

強固な日米同盟の上に、歴史と経験・ノウハウを兼ね備えた英国との同盟、そして、小国ながらも技術力と資金力そして、情報戦も含めた軍事力では、世界有数の国、スイス、イスラエル、シンガポールと緩やかな連携により、日本のアイデンティティを守る。



日本の現状

経済的な成熟度が進んでいる関係上、社会インフラ及び耐久消費財等も行き渡っていることから、安定成長と言う名の低成長。しかも、非正規労働者の比率が38%にも達し、OECD加盟国の中では高い水準にあり、これが格差拡大に拍車をかけており、金融・財政政策を展開しても、一般庶民の将来に対する

漠然とした不安が解消されない限り、日本国内の消費も投資も本格的に、幅広く拡大していない。一方、一部の投資拡大が、更なる格差拡大を招いてしまう。悪循環を招いている。

中小企業の生きる道

日本が特に強いと言われる分野、「核心部品、高度素材、製造装置、メンテナンス・アフターケア」において、それを提供する場は、日本であり、日本人・日本企業・日本しか出来ない技術をベースとした、物やサービスの提供を消費者と共に、質の向上をはかり、それにより「世界になくはない国家」作りの根幹となす基本である、人材育成が最も大切な使命と考えます。

いつも盛りだくさんな話題を題材に、ご講演頂いておりますが、今回は更に、懇親会においても「北朝鮮問題」についても触れて頂き、大変充実した講演会となりました。

真田先生はじめ、りそな銀行様には大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

真田先生はじめ、りそな銀行様には大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

松浦(記)

ORD勉強会

『経営者の思いが伝わり社員が育つ「これからの人事評価」セミナー』



経営者の思いが伝わり社員が育つ 「これからの人事評価」セミナー

会場：奥野製薬工業株式会社 会議室
2017年9月26日

2017年9月26日（火）奥野製薬工業(株)会議室にて FMB コンサルタンツ(株)マネージャー松本昌也氏をお招きして人事評価の勉強会を開催しました。

ORD としては、あまり取り上げてこなかった会社の人事に関する初めての勉強会で当初は参加者が集まるのか心配しましたが、企業としては逃げてはならない問題である為か会員の社長様をはじめ総務関係の方々 12 名の参加を得ることが出来ました。

今回ご紹介頂いた人事評価システムは中小企業向けです。

時代背景として

- ・人材の争奪戦（人手不足）
- ・非正規社員の待遇改善（同一労働、同一賃金）
- ・労使紛争（訴訟）の増加
- ・中小の賃上げ大手を上回る

といった問題が企業経営者に押し掛かっている。



そこで今回紹介頂いた新しい人事評価は、査定のためだけのツールではなく、生産性の向上、管理職の育成、離職率の低下防止、採用 / 研修コストの圧縮等を行うことにより企業業績の向上を実現する事の出来る制度です。

そのポイントとは、

- ・行動目標の自己設定
- ・絶対評価
- ・マイナス査定
- ・四半期査定
- ・IT 化

これにより人材育成と企業防衛につながるとのこと。



勉強会では、あしたの人事評価（新）と今の人事評価（旧）と対比して評価期間や目標設定、評価、評価方法等をそれぞれの項目に於いて詳細にご説明頂いた。又カードを使ったゲーム形式でのコンピテンシー（ビジネスシーンにおける仕事ができる人の行動特性）の評価要素の勉強も行いました。

参加頂いた会員の方々も今の会社の評価システムと見比べながら聴講されておられたのか、時々頷いたり、顔を上に上げられ思考する姿が垣間見られました。

きっと会社に持ち帰られ現行システムの改善に役立てて頂けると事でしょう。

講演頂いた、FMB コンサルタンツ(株)松本様に紙面をお借りしてお礼申し上げます。

事務局（記）

製品開発委員会第3回例会レポート 日帰り研修

●日 時：2017年9月13日(水)

●訪問先：①オーツケミカル(株) 和泉市
②ウインナック(株) 和歌山市
③ウインワークス(株) 和歌山市
④アクロナイネン(株) 和歌山市

①出発：中央郵便局前：午前8時
②オーツケミカル様見学
③昼食：和歌山市の海鮮料理・西村屋
④連続アクロナイネン三社の見学の強行
⑤懇親会：和歌山市“がんこ六三園”
⑥帰着：中央郵便局前：午後8時30分

当日の行程

今年の夏はすこぶる付きの猛暑でしたが、ようやく夏も終わり少ししのぎ易くなった初秋の9月13日、製品開発委員会は日帰り研修に行ってきました。集合場所はいつもの大阪駅前の旧中央郵便局前で、中型バスが待機していました。今回の参加者は名簿に示す9名です。予定ではバスの出発時間は午前8時でしたが、皆さん時間より早く集まったので、定刻より早く出発できました。天気は快晴、温度は少し高目でしたが、良い旅を予感させる出だしでした。

1. オーツケミカル(株)の見学

最初の訪問先は大阪南部のテクノステージ和泉工業団地にある“オーツケミカル(株)様です。ここは合田会長が1971年にオーツタイヤ(株)(現住友ゴム)から分離・独立させて創業した会社です。会社の名前はその由来に因んでいます。製造部門として(株)タンデムも経営しています。同社は金属に樹脂のウレタンゴムを接合・貼付させる技術に強く、マッチ棒のように細い金属棒から最大径1800mmφの鉄ロールにウレタンを巻付けて接合して、ローラー、フォークリフトのタイヤや板状のスキージを作ってい

会社概要

社 名：オーツケミカル(株)
所 在 地：大阪府高石市取石 5-9-1
設 立：1971年 8月
社 長：合田 研吾様
事業内容：●ウレタンゴムによる各種工業用品の製造販売
●工業用ゴム製品、プラスチック製品の販売

会 社 名	役 職	氏 名
テクノロール(株)	取締役海外部々長	藤川 儀夫
テクノロール(株)	取締役	内木場 正樹
(株)三社電機製作所	執行役員企画本部	鈴木 茂人
ネクスタ(株)	経営企画室々長	米山 仁
ユニケミカル(株)	代表取締役	神崎 吉夫
ユニケミカル(株)	監査役	若山 武裕
セン特殊光源(株)	代表取締役	菊池 清
山本光学(株)	常務執行役員	向山 悦治
ORD事務局	事務局長	佐藤 晴央



オーツケミカル(株)の工場前の集合写真。前列で腰を下ろしている、向かって左側の人物が合田社長。

ます。ローラーと言えば我が製品開発委員会メンバーのテクノロール(株)を思い出します。テクノロールの内木場取締役の話では、オーツケミカルとテクノロールは製造技術面では競合するとの事でした。しかも両社共にテクノステージ和泉工業団地にあります。



アクロナイン（株） 本社工場・和歌山市西浜

同業社に技術の秘密が詰まった工場をみせるでしょうか？ 幸いなことにオーツケミカルとテクノロールの製品は市場が異なっています。周知の通りテクノロールの製品は印刷市場に専売されています。

2. アクロナイングループの見学

大阪府のテクノステージ和泉をはなれて、次の見学先の和歌山市に入った頃にちょうどお昼の時間になったので、和歌山城の近くにある海鮮料理・西村屋で昼食を取りました。海鮮料理屋らしく新鮮な魚介類タププリの蒸籠蒸しが出てきたので、日帰り研修



アクロナインの事務所前記念撮影。前列右から3人目が勝本社長、4人目がウインナックの前（まえ）工場長。工場長には懇親会にもお付き合い頂いた。

と云う勤務時間中?でしたが、誰云うともなくお昼からビールが出て、すっかり観光気分になっていました。

次の見学先は経営者の企業意欲がすこぶる高いアクロナイン(株)様のグループ三社です。

アクロナインは 1963 年に和歌山市内で内燃機の再生業として、和歌山内燃機工作所を発足。2003 年に現在のアクロナインに名前を変えました。ナインの名前は“内燃”から来ており、“アクロ”はギリシャ語で、アクロポリスと言われるように、「高い、上」を意味するそうです。これまで多くの工場を建設し、他社を吸収合併して成長を続けてきました。



ウインナック（株）、ウインワークス（株） 和歌山市雑賀崎

会社概要

社 名：アクロナイン (株)
 所 在 地：和歌山市西浜
 設 立：1968年2月
 社 長：勝本 真人様
 社名変更：2003年、和歌山内燃機 (株) より
 事業内容：●自動車用遠心クラッチ、ピストン、
 ブレーキ、ディスクパッド
 ●工作機械等のダイカト精密鋳造、
 鉄系、銅系焼結合金部品
 ●タッチパネル製造販売
 1994 年：和歌山県、和歌山市と同社で第3セク
 ター方式により、重度障害者多数雇用
 企業として、ウインナック (株) を設立。
 2009 年：ウインワークス (株) を設立。
 ：就労継続支援A型事業所。

1988 年には全くの異業種である梅干を扱う (株) 勝
 僖梅 (しょうきばい) を南部町に設立。それに止まらず
 1994 年に同社と和歌山県、和歌山市は、第3セクター
 方式により重度障害者多数雇用企業としてウインナッ
 ク (株) を設立しました。従業員は 52 名で、障害者は
 その中の 10 名。

2009 年にはウインワークス (株) を設立して、障害福
 祉サービス事業「就業継続支援 A 型事業」と福祉事
 業を拡大しました。両社の製品はアルミダイカスの金型
 設計と金型鋳造が主で、アクロナインの基幹事業を活



和歌山市にある“がんこ六三園”内の武家屋敷正門。初秋にふさ
 わしい花々が咲き誇って、良い季節に巡り合えた。

会社概要

社 名：ウインナック (株)
 所 在 地：和歌山市雑賀崎
 設 立：1994年11月
 社 長：西 芳男様
 事業内容：●アルミダイカスト金型設計、金型
 鋳造

かしています。

親会社のアクロナインはその後も飽くことなく、中
 国の上海、北京やタイにも事業所を展開しています。

懇親会

懇親会は和歌山城近くの敷地2000 坪の“がんこ六
 三園”で催しました。誌面が尽きたので、写真で六三
 園の雰囲気味わってください。



菊池 清(記)／セン特殊光源

平成29年第4回製品開発委員会例会レポート 日帰り研修反省会

- 日 時：2017年10月18日(水)
- 場 所：ユニケミカル(株) 製品開発委員会々議室／大阪市淀川区西中島、第7地産ビル
- 例会議題
 - ①「日帰り研修」反省会
 - ②平成30年度役員改選人選検討(現藤川委員長退任)
 - ③出席各社の現状報告・意見交換
- 懇親会：とも吉(西中島)(特別会費徴収\5,000円)、時間:17:00～19:00

はじめに

予定通り第4回製品開発委例会を通称製品開発委議室で開催しました。例年第4回例会は前会の日帰り研修の反省と云う大きなテーマが取上げられますが、今例会では突然事前に、藤川委員長から、社命により委員長を辞退しなければならなかったとの申入れがあり、更に当委員長が当日は社業により欠席することになりました。そのため規定により、当委員会の副委員長・菊池社長と佐藤事務局長の二名が共同で司会を務めて、例会を開きました。

例会議題

①「日帰り研修」反省会

日帰り研修会報告書“製品開発委第3回例会レポートR1”を配布して、それを参考にして作成者の菊池社長が日帰り研修の概要を報告した。内容は例会で全員に配布したレポートを参照されたい。

②平成30年度役員改選人選検討(現藤川委員長交代)

例会の前に、藤川委員長から委員長辞退に関わる最新状況を知らせるメールが、佐藤事務局長、岡崎会長と製品開発委運営委員宛に送られてきた。その内容を佐藤事務局長が例会において説明した。以下が概要・・・

「本日の10月例会に出席予定しておりましたが、中国上海からの来客対応のため参加が困難になりました。小職の委員長辞退問題については、この10月からの新年度のスタートに当たり、社内の組織変更があり、海外営業部も大阪、東京の2分割化となり、多少仕事の負荷が軽減されることになると思います。東京はLine営業中心で社長直轄、大阪本社は主としてLicense契約・輸出入等管理業務中心。東京は管掌役員として社長と連携。この機会に西協会

長と引続き話合の場を作り、継続についての特認を得るべく努力する所存であります。藤川」

補足説明が内木場取締役からあったが、状況はやや入り組んでおり、要するに部外者が決断できる生易しいものではない。従ってこの重要案件は、次回に持ち越さざるを得ない事になった。

③出席各社の現状報告・意見交換

第2議題が混沌としていたので、今回の第3議題は霧散してしまい、早く懇親会へと意見が出て、例会は1時間早く閉じて、午後7時には懇親会場の友吉(西中島店)に向かいました。

代理司会：佐藤事務局長
菊池 清(記)／セン特殊光源(株)

第4回例会出席者 敬称略		
会社名	役職	氏名
ユニケミカル(株)	代表取締役	神崎 吉夫
ネクスタ(株)	代表取締役会長	岡崎 昌三
(株)三社電機製作所	執行役企画本部長	鈴木 茂人
テクノロール(株)	取締役	内木場正樹
マルエス電機工業(株)	代表取締役会長	阪井 啓一
セン特殊光源(株)	代表取締役	菊池 清
ORD事務局	事務局長	佐藤 晴央



阪急と地下鉄御堂筋線、西中島南方駅に挟まれた“とも吉、西中島店”

技術促進委員会「一泊研修」レポート

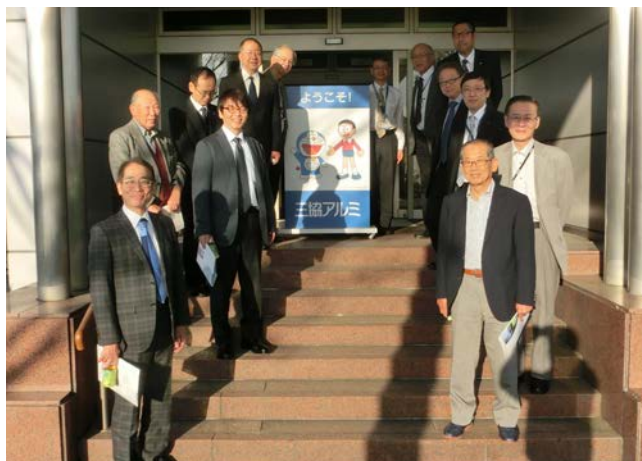
●日時:2017年11月10日(金)～11日(土) ●場所:場所:三協立山株式会社、YKKセンターパーク、兼六園



新湊大橋より望む立山連峰

今年の一泊研修は、秋空の中、総勢13名にて大阪駅前よりバスにて出発し、初日に三協立山株式会社、射水工場様にてアルミ押出工程ならびに表面処理工程を見学させていただき、金太郎温泉にて宿泊、2日目にYKKセンターパーク様を見学後、兼六園にて昼食および散策をし、帰阪いたしました。

三協立山(株)様といえば、ご高承のとおり国内アルミ大手であります、会社名の由来の「三協」は得



三協立山(株) 玄関にて

意先/社員/地域の三方を指すとのことで、創業時より地域を大切にされ、アルミの製造に不可欠な水(立山連峰の雪解け水を利用)と電力を必要とする立地条件から富山県を中心とする北陸地方に工場が集中されておられます。アルミビレットは主にニュージーランドから地金を輸入しリサイクル品と混ぜ合わせて三協立山(株)様の他工場で製造されます。射水工場様では、製造されたビレットを受け入れ、押出

し成型を行った後、表面処理を行っております。主に建材用が多く、約5万種類の金型があり、押出された成型品は大きなもので約60mになります。成型された製品は防錆と装飾を兼ねて表面にメッキ処理を行い、後工程の最終製品の製造のため他工場に出荷されます。

やはり、大きなものを製造する工場での見学は、我々のような異業種の団体でも非常に理解しやすいものでした。とはいえ、アルミの押出成型の技術ノウハウは、製品の寸法精度等の確保をはじめ、経験則に基づくものが多くあり、一朝一夕には製造できるわけもなく、モノづくりの難しさを改めて認識する見学会となりました。

見学後、宿泊予定の金太郎温泉に向かいました。温泉を堪能後、おいしい食事に舌鼓を打ちました。

2日目は、午前9時の開門と同時にYKKセンターパー



YKKセンターパーク



YKKセンターパーク見学風景



YKK拠点工場魚津製作所

パーク様を見学しました。YKK センターパーク様はYKKの工業団地内にある博物館なのですが、一般公開もしており、我々以外にも一般の来訪者も多く、ファスナーの歴史等を知ることができます。あまり前面に出ていなかったのですが、創業者の吉田忠雄氏のファスナー製造に対する熱烈な想いが、今のYKKグループを作ったことが良くわかります。売店で創業者の著書等がないかと思ったのですが、残念ながらありませんでした。ですが、端々にあった創業者の名言には頷かされるものがありました。



兼六園雪つりをバックに



紅葉の兼六園



兼六園

その後、金沢まで戻り、兼六園そばの兼見御停にて金沢料理に舌鼓を打ち、兼六園を散策いたしました。感心したのは、主だった食事処やお土産物屋には、公認のガイドが常駐しており、我々が依頼したよ

うに金沢城と兼六園のガイドをしていただける仕組みになっており、観光への取り組みを町全体で行っておりました。

天気予報では当日あまり良い天気ではなかったのですが、幸い傘を使うことなく、無事、帰阪しました。

最後に、お忙しい中、三協立山(株)村澤様をはじめご対応いただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶(記)/旭テック(株)

技術促進委員会「研修」レポート

●日時：2017年12月13日(水) ●場所：関西空港、株式会社AASC、忘年会



関西空港展望ホール玄関前にて

今年最後の例会は、寒空の中、総勢 17 名にて関西空港の 2 つのツアープランに参加し、忘年会を難波にて行いました。

関西空港では、一般の方々を対象に色々な見学ができるようになっていました。今回は、機内食工場見学ツアーならびにわくわく関空見学プランを満喫いたしました。

機内食見学ツアーは、関西空港にて機内食のケータリングサービスを行っている株式会社エイエイエスケータリング（以下、AASC）様を見学させていただきました。（株）ASSC 様は 37 社の航空会社から機

内食を受託されておられます。一口に受託といっても、①メニューの開発、②調理、③セット（盛付け）、④搭載コーディネート（飛行機への搭載）から成り立ちます。他のケータリング会社に先駆け、早くからハラル対応に力を入れておられ、ハラル対応の航空会社は 5 社ながら、AASC 様の供給量の 40% がハラル対応の機内食とのことでした。工場見学前に徹底した衛生チェック（体温含む）と着替え等を行い工場に足を踏み入れました。機内食は調理されてからすぐに食されるものではありませんので、滅菌工程や保存の温度管理、航空機への搭載まで時間管理



AASC受注航空会社



AASC外観 右2台がA380（全2階建航空機）用の特大ケータリング車



健康チェック・体温チェックを受けるメンバー

等、大変厳しいものでした。また、海外の航空会社指で現地調達食材等がありますが、それらは保税区内で保管され、国内で消費されるものと機内で消費されるものを厳格に区別する必要があるとのことでした。それらのやり取りは税関とオンラインで逐次処理されているとのこと。最後に専用の積載車両を使って航空機へ搭載されます。

これらを見学して、機内食を製造し安全に食べるために莫大なコストがかかっていることが理解できました。製造原価はさすがに教えていただけませんでした。エコノミークラスだと食材費より管理コストのほうが高いのではないだろうか？と思わせられるほど管理すべき項目が多く、それらを丁寧に対応されておられました。見学後、(株)ASSC様が経営されているスカイビューレストランにて機内食をおいしく食しました。

昼食後、少し長い休息を展望ホールのお土産売

場で過ごし、今度はわくわく関空見学プランにて、一般には立ち入ることのできない航空保安区域にある施設を見学しました。寒風吹く中、まずは KIX メガソーラー傍にて 15 分あまり航空機の離着陸を見学していました。基本的にはバスの車窓からの見学で、給油タンク施設、国際貨物地区等、航空機を安全に運用するためのバックヤードを見学しました。

無事見学が終わり、南海電車にて移動し、難波駅周辺にて鉄板焼きを食しながら忘年会を執り行いました。今年一年を無事終えることができ、改めて皆様のご協力に感謝いたします。

最後に、お忙しい中、ご対応していただきました株式会社 AASC をはじめ対応していただきましたスタッフの皆さまに感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶(記)／旭テック(株)



完全防備の参加者たち 誰が誰だかわかりますか？



難波に帰っての忘年会

